



## 高校野球のマナーとルールを学ぼう (第50回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。  
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えします。

### マナー&ルール編 偽投と牽制球

「走者三塁、スクイズの気配があるような場面では、投手と野手の呼吸、守備のリズム、攻撃側の作戦を探るなどの意図で、牽制球を投げたり、偽投を試みることがあります。三塁への偽投ができなくなって一年が経過しました。今一度、その規則改正の趣旨を確認しましょう。

公認野球規則(オフィシャル・ベースボール・ルールズ=OBR)は、米国で改正事項を審議したものが世界に発信されます。例年、規則改正の最終承認を決定するのは大リーグ選手会です。日本ではその翌年から採用されます。すべてを採用するのではなく、プロ・アマ合同の日本野球規則委員会で審議し、必要に応じて〈注〉を加えるなどの後に公認野球規則書が発刊されるのです。

2014年の規則改正に関して日本野球規則委員会は、

- ① 近年の規則改正はスピードアップルールが根幹にある。
- ② 大リーグで活躍する日本人投手は、投球・塁への送球ともに優れていて、「三塁偽投 → 一塁送球」など、以前からボークと判定すべきかどうか、日本でも議論のあった事項が同様に取り上げられ、この送球動作は審判間でも規則適用に個人差が出ることを懸念する意見が出された。

以上の経過で最終的に「三塁偽投禁止」に結び付いたとされています。今も二塁への偽投は許されていますが、複数の塁が絡む送球動作で二塁をフェイントに使ったり、最終の送球塁になることが少ないからかもしれません。尚、日常的に使っている「牽制球」の定義は規則書にありません。まず第一に、8・01(a)【原注2】②の「走者を

アウトにしようとして塁に踏み出した送球」が確認できます。また「牽制」の語義として、走者のリードや盗塁を阻む送球もあるでしょう。しかし、8・05(h)に記載のとおり「投手が不必要に試合を遅延させた」と判定されればボークが適用されてしまいます。

三塁への偽投禁止は指導者にとっても、またプレーヤーにも大きな規則改正でした。

OBRの発表から一年のキャンペーン期間を経ての日本改正。それからさらに一年、新しいシーズンに備えて、今一度大切な規則を共に考えることは貴重です。常に規則を正しく理解し、グラウンドでのお互いは大切な事柄を共有する仲間であることの認識、それはスポーツマン最大のマナーです。上記のとおり、規則改正の最終承認の決定は大リーグ選手会、まさに「プレーヤーズ・ファースト(競技者第一)」の精神が大切にされています。

